

“かぜ”に抗生物質は体に悪い？

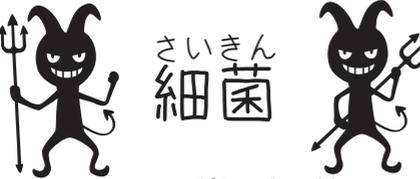
みなさん、かぜをひいたときにどんな薬を飲んでますか？病院でもらった抗生物質を飲んでいませんか？実は、ただのかぜには抗生物質は効果がありません。それどころか、体にたくさんの悪いことが起きてしまう可能性すらあるのです。

①細菌とウイルスの違い

そもそも感染症の原因には、「細菌」と「ウイルス」の2種類あります。

細菌の方が強力で重症化しやすいですが、抗生物質が効くため薬の力を借りて治すことができます。一方、ウイルスは抗生物質が効きません。しかし、細菌よりは体への害が少ないので、休むだけでも自分の免疫で治ることがほとんどです。

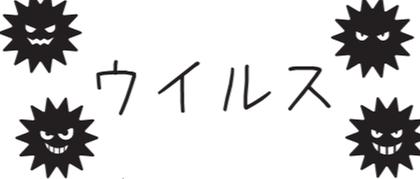
細菌



- ・ウイルスの数百倍の大きさ
- ・自己増殖する
- ・人に害を及ぼす力は強め
- ・かぜの原因ではない

VS

ウイルス



- ・すごく小さい
- ・生物の細胞に寄生して増殖する
- ・人に害を及ぼす力は弱め
- ・かぜの原因



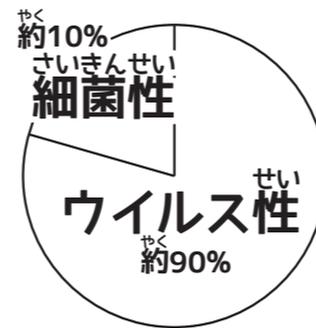
そして熱が出た、のどが痛い、頭が痛い、ぐあいが悪い・・・といった症状であるかぜの原因はすべてウイルスです。そのため抗生物質は効きません。そればかりか、抗生物質を不適切に飲んでしまうと、体にはむしろ害になることすらあるのです。

②抗生物質が体に悪い理由

体にどんな悪さがあるのかは難しいですが、少し詳しく説明します。

私たちの体には、数え切れないほど多くの細菌がいます。実は細菌は体に悪さをするものばかりではありません。人の健康のために役立つ細菌もたくさんいて、私たちはそんな多くの細菌と一緒に暮らしているのです。しかし、抗生物質を飲むと、悪い菌ばかりではなくそのような良い細菌まで倒してしまいます。だからなんども抗生物質を飲み続けて良い菌を倒し続けてしまうと、大人になったときに様々な病気にかかりやすくなってしまいます。

③抗生物質はいつ使うのか



かぜかな？と思ってもなかなか治らないとき、それは別の病気の可能性があります。病院に行くほどつらい熱を出している子どものうち、細菌が原因の病気である人は5~15%と言われています。でも、これを自分で見分けることはむずかしいので、こういうときは病院で診てもらいましょう。

病院で診てもらったときに気を付けるべきことが3つあります。まずは抗生物質を自分から飲まないことです。そして抗生物質が出されたときは、必要な理由を聞いてみることも大切です。また、もらった抗生物質は最後まで飲みきり、決して他の人にあげないようにしましょう。もちろんその理由は、ほとんどの場合に抗生物質は効かないばかりか、体に悪い影響を及ぼしてしまうからです。